

## コシヒカリにおける栽植密度ごとの欠株と生育・収量の関係

### 1 背景・目的

水稻の疎植栽培は植え付け密度が疎であることから、慣行栽培に比べ欠株部分の株間空間が大きくなり、補償作用があるとはいえ収量の減少が懸念される。このため、栽植密度ごとに欠株の程度が収量に及ぼす影響について調査する。

### 2 技術のポイント

- (1) 調査株の茎数は、最高分けつ期頃には欠株のある区が欠株のない区を上回り、成熟期の穂数も多かった。
- (2) 欠株がある場合の収量調査株の精玄米重を $m^2$ あたりに換算した収量（欠株区周辺収量）は、 $3.3 m^2$ あたり37株移植の3連続欠株で欠株なし区に比べ12%減収したが、他の栽植密度・欠株数においては欠株なし区対比97～106%であった（図2）。

$3.3 m^2$ あたり60株、50株、42株移植において、3連続欠株となっても収量は欠株なしと同等程度が見込まれ、37株移植の3連続欠株では収量低下のおそれがあると考えられる。

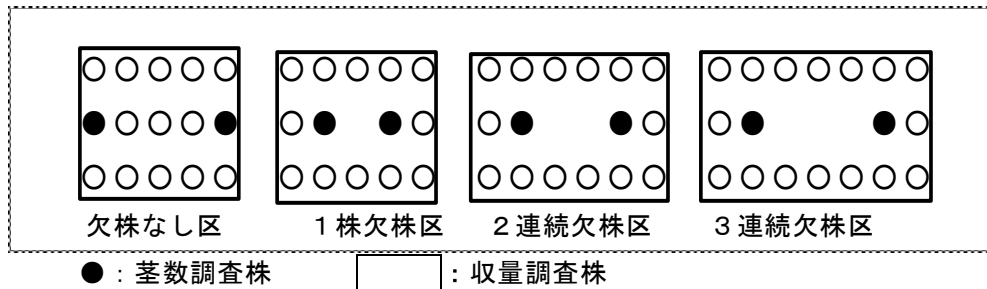


図1 試験区の設定

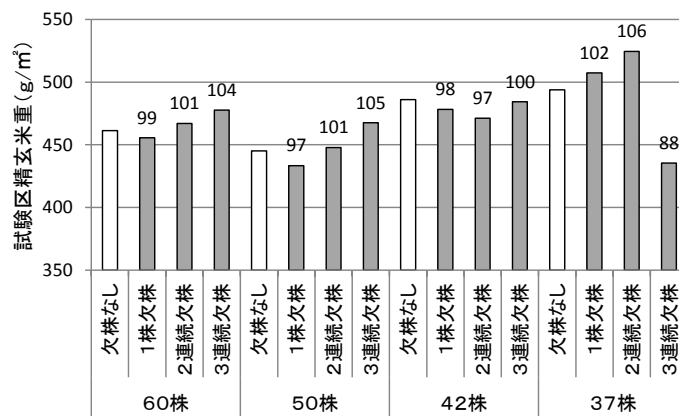


図2 欠株数と欠株区周辺収量

### 3 注意点

疎植栽培では欠株程度が大きくなると雑草が発生しやすくなる。除草剤の適切な使用で防除に努める。